

# 明石川と共に生きる ヒラテテナガエビ

## ヒラテテナガエビについて

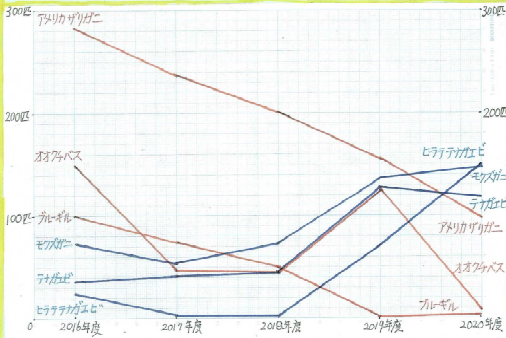
ヒラテテナガエビは別名「ホテナガエビ」と呼ばれ、体長8~10cmにもなる大型の淡水エビです。第2脚(はさみ足)がつぶされたために平たいので、そう呼ばれています。学名は *Macrobrachim japonicum* です。肉食ですが、藻もよく食べます。いつもは水がきれいで流れが早く川底に石がごろごろしているような中流に生息していますが、成体になり産卵期になると下流において産卵します。生まれた幼生は海まで下り、アユやウナギと同じように回遊し、ヒラテテナガエビの幼生は、汽水や海でなければ成長ができません。

## ヒラテテナガエビとアメリカザリガニ

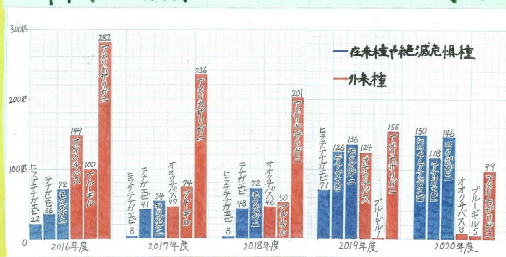
ヒラテテナガエビは体長8~10cm、アメリカザリガニは体長8~12cmで、色や姿や形が似ていて、ヒラテテナガエビを知らない人はアメリカザリガニと間違ってしまうかもしれません。しかし、ヒラテテナガエビはテナガエビ科テナガエビ属で第2脚がはさみ足になり、アユがいるような水がきれいで流れが早く川底に大きな石がごろごろ転がっているような場所に生息しています。それに対してアメリカザリガニはアメリカザリガニ科アメリカザリガニ属で第1脚がはさみ足になり、池や用水路や田んぼなどドジョウやメダカがいるような流れの緩い浅い泥底に生息し、流れの早い川にはいません。

## 増えてきたヒラテテナガエビ

私たち中学生が玉一アクリウムに入った頃は、ヒラテテナガエビはとでも1年で1年間に数匹しか捕れない神戸市絶滅危惧Aランクのとても珍しいエビでした。しかし2~3年位前から明石川中流の迂回型魚道の調査で川を遊んでいるヒラテテナガエビの幼体をよく見るようになり、その後、中流~下流で成体も多く捕れるようになりました。今では調査の度に捕れるほど増えて、ヒラテテナガエビに会いたいと思っただけでも会えるようになりました。私たちはずっとオオクチバスやブルーギルを駆除を続けてきた結果、オオクチバスやブルーギルは減ってきましたが、反対に天敵がいなくなったアメリカザリガニが増えていました。あきらめることなく引き続き調査の度にアメリカザリガニの駆除を続けました。そしてやがてアメリカザリガニの数が減り始めると、それに反応する様に絶滅危惧種のヒラテテナガエビや在来種のテナガエビやモズクなどが増えてきました。そしてついに2020年度には、明石川で1年間に捕獲されたヒラテテナガエビの数が1年間に捕獲されたアメリカザリガニの数を上回りました。私たちが積み重ねてきた努力が実を結んで、とてもうれしいです。これからも今まで以上に頑張りたいです。



## 1年間に捕獲した明石川の生物の変化



## 絶滅危惧AランクがBランクに

神戸市環境局環境都市課から、玉一アクリウムに神戸版レッドリスト及びブラックリスト改訂(案)に係る意見募集の連絡がありました。改訂(案)では、ヒラテテナガエビがカワアナゴと共にAランク(環境省レッドリスト絶滅危惧I類相当)からBランク(環境省レッドリスト絶滅危惧II類相当)に下がって、増えてきたことが証明されて私たちはとてもうれしかったです。みんなが話し合えて神戸市に玉一アクリウムの意見を提出しました。「カワアナゴとヒラテテナガエビは調査で増えていることがわかったので賛成です。しかし、また減るかも知れないのでAランクで残しておいて欲しいという意見や、たくさん増えているのでCランクでもいいという意見もありました。」「レッドリストの選定種が871種から932種に増え、ブラックリストも94種から98種に増えるのと対照し、レッドリストもブラックリストも減らしてきています。」(提出した意見の一部です)と神戸市から神戸市の考え方を「いただいたご意見を踏まえ検討した結果、カワアナゴとヒラテテナガエビについては、神戸版レッドリスト2015作成時よりも生体の確認記録が増えているが、生息数が大きく増加しているとは判断できるほどの状況ではないことから、両種とも「Bランク」に設定することが妥当と考えております。」今後とも神戸市の生物多様性の保全の取り組みへのご理解とご協力を願います。」とお返事がありました。そして、令和3年3月に神戸市から発行された「神戸の希少な野生動物植物 神戸版レッドデータ2020」でヒラテテナガエビが絶滅危惧Bランクとして掲載されました。

No.	種名	種別	神戸版レッドリスト2015	環境省レッドリスト2015	環境省レッドリスト2020	生息地
1	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	A	B	B	アノコザリガニ
2	ヒラテテナガエビ	テナガエビ科	A	B	B	ヒラテテナガエビ
3	オオクチバス	シマアユ科	C	B	B	オオクチバス
4	ブルーギル	シマアユ科	C	B	B	ブルーギル
5	カワアナゴ	カワアナゴ科	C	B	B	カワアナゴ
6	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ
7	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ
8	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ
9	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ
10	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ
11	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ
12	アノコザリガニ	多岐スズクザリガニ科	B	C	C	アノコザリガニ

## 神戸の希少な野生動物植物 神戸版レッドデータ2020

神戸市での取り組み  
神戸市生物多様性の保全に関する条例  
神戸市は、「神戸生物多様性の保全に関する条例」を制定しています。この条例は、「希少な野生動物植物の保全」「外来種による生態系への被害の防止」「市民等との協働による生物多様性保全活動の推進」の3つの大きな考え方を掲げ、生物多様性の保全及びそのための協働を促すことにより、神戸市の自然と共生する社会の実現を図り、神戸市民の健全な発展を確保することを目的とする。

知っていますか?「神戸市生物多様性保全活動補助事業」  
市内の生物多様性の保全の取り組みを進めるために、保全活動(取組)の団体に、その活動に係る経費の一部を補助しています。  
例えば、「神戸版レッドリストに掲載されているCランク以上の動物植物の保全活動」や「神戸版ブラックリストに掲載されている外来種の駆除活動」、「在来の生態系保全や生物多様性の普及啓発に関する活動」が対象となります。  
「新しい保全活動を始めてみよう」、「活動の幅を広げてみよう」など、保全活動に対する動機に開かれた取り組みがありましたら、神戸市のホームページで詳細をご確認ください。

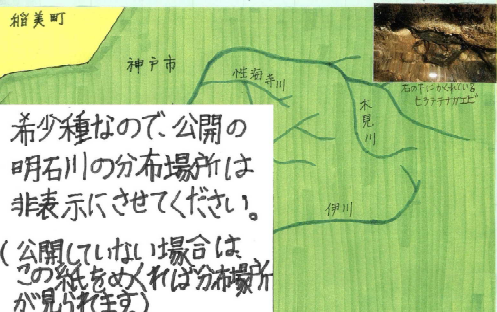
このレッドデータ2020の神戸市での取り組みの中、神戸市生物多様性保全活動補助事業の紹介に玉一アクリウムが明石川で活動している写真を使ってくださり、とてもおどろきました。私たちは神戸市から保全活動に取り組みしている団体としてウエーダーやタモ網や仕掛けや観察ケースなどをいただき、とても助かっています。

## バブエとヒラテテナガエビの関係

滋賀県の淡水の川づくりフォーラムに参加した時に滋賀県立大学龍研究の「小さな自然再生~バブエで落ち葉を溜める~」の発表で川の石を積んで溜めるバブエを知りました。バブエに落ち葉が溜まると分解されて水生生物が増えて川の生態系が豊かになるというもので、私たちはさらに「バブエの石積みはヒラテテナガエビの隠れ家にもなるのでは?」と思い川の石を積んでバブエを造りました。しかし残念なことに大雨の増水でバブエの石積みはくずれてしまいましたが、そのくずれた大きな石の下を調査すると、たくさんのヒラテテナガエビがすんでいました。

## ヒラテテナガエビの明石川分布

希少種なので公開の明石川の分布場所は非表示にさせていただきます。(公開していない場合はこの紙をくれれば分布場所が見られます)



- ① 明石川下流  
川の流れはおたやかたで、ここから下流の明石川にはいません。成体のオスとメスがたぐさみいます。明石川下流で合流している支流で急流もあります。幼体が多ですが卵を持たない成体もいます。流れはやや早い堰があります。堰の下には成体が多く、魚道を渡るたくさんの幼体が混ざります。
- ② 伊川  
明石川中流で合流している支流で、急流が多いです。流れが細く草が茂っていて、幼体や成体が少いです。急流や流れのおたやかた場所が連続しています。成体が多くオスや卵を持たない成体も見つかります。
- ③ 明石川中流  
流れが細くなり、さらに急流になります。小さな幼体が多いため、たまに成体も見つかります。
- ④ 榎谷川  
急流や流れのおたやかた場所が連続しています。成体が多くオスや卵を持たない成体も見つかります。
- ⑤ 明石川中流  
流れが細くなり、さらに急流になります。小さな幼体が多いため、たまに成体も見つかります。
- ⑥ 明石川中流  
成体も見つかります。

## ヒラテテナガエビのオスの覚悟

ある日、調査の時に大きな石をひっくり返すと、ヒラテテナガエビのペアがいて、つがえて2匹を両手の中に入れました。するとオスは大きなほみを持って、使わすに動かす。たぐさみとしていました。卵を持ったメスは小さくはさみと体全体を使って必死に逃げようとして、途中で動き回っていました。その時、私たちはヒラテテナガエビのオスの自分が食べられて犠牲になる、でもメスを守ろうとするオスの覚悟を感じました。その後、100匹以上のヒラテテナガエビを捕りましたが、幼体やメスの成体はつかまらなかった。必死に逃げようとしていますがオスは大きなほみをだらしなくして抵抗せずじっとしています。自分が食べられて犠牲になることで、子どもや卵を産むメスが食べられずにすみ、子孫を残せるように考えたオスの覚悟に感動しました。

## 終わりに

僕が初めてヒラテテナガエビを見たのは2年生の時、6年前の明石川です。スズエビがいたので、ヒラテテナガエビが網に入るとは大興奮でした。バケツに入れたヒラテテナガエビが、かきこめて時間を忘れるくらい眺めていたことをよく覚えています。あの時絶滅危惧種Aランクだったヒラテテナガエビが今は数が増えBランクになっていると聞いてアクリウムの日々の活動の成果だと思いました。10年にもなる活動は明石川を変えたはずで、明石川が多種多様な生物でいっぱいになりました。

ヒラテテナガエビを塩焼きで食べる!  
明石川のヒラテテナガエビは、現在兵庫県では絶滅危惧Aランク、神戸市でもBランクで、また捕って食べられないので、「いい川づくり」からお世話になっている高知県の(公財)四万川川財団の方たちや四万川川で活動している小学生たちに協力していただいて高知県の仁淀川でヒラテテナガエビと一緒に捕って河原で塩焼きにして食べていただきました。聞いていたとおり、香ばしくて身が甘くてとてもおいしかったです。